第一〇四回楽々俳句会（ちば）

令和六年二月二十七日（火）　晴　風強

会場　中山法華経寺吟行　梅と雛祭り　投句三句　五句選

句会場：参道内「菊寿司」十一時三十分から十五時

武久
武　久
武久　2老ゆるとも今盛りなりしだれ梅　育子
　　2 1松籟や荒行堂の冴返る　武彦
　　5風に乗り喜び合ふや吊るし雛　久登
武久　1 1鬼子母神明治の雛は身じろがず　恵美子
武久　1　扁額の正中山へ雛句会　成子
久　2近寄れば雛のかんばせ似て非なり　武彦
武　1枝垂梅荒行堂の扉開く　久登
武　1如月の光の中に法華経寺　粋歩
久　1春日受け蒋介石の坐像かな　利太郎
久　法華経寺山道に咲くつるし雛　育子
久　境内に句会仲間の春日和　静代
久　雛祭り娘の婚期遠くなり　ミチ子
久　枝先を川面に流し猫柳　久登
　1 3紅梅や掌大き祖師の像　恵美子
　1 2み仏のわらじの指を包む東風　粋歩
　1 1強東風に背中押されて法華経寺　今日子
　　強東風や法華経寺へ背中押す　信雄
　1 1合わぬ間にまなざし深き雛の顔　信雄
　1　春泥を塗られ赤子と褌衆　利太郎
　1　下総の街を染めたる雛祭り　宣子
　　3雛飾り微笑む母と子とスマホ　静代
　　3仰ぎ見て参道そろり寒桜　利太郎
　　2裏金におもて困つて裏笑顔
　　季語は
　　2明治雛百五十年の燻し銀
　　2吊るし雛風に吹かれれて客を呼ぶ
　　1梅一輪日蓮の説法故郷の幸

追加
・梅の香に突き当たる法華経寺
・房総の白波立つや春の道
・体調に合わす歩巾や春残し

　1春ほこり五重の塔を上り行く　ミチ子
　1荒行のなごりの井戸や古木梅　宣子
　1寒冷の静けさに酔ふ雛人形　今日子
　1今日落ちて明日に咲せる山茶花よ　育子
　1被災地の寒さに寄り添うボランティア　豊隆
　　野芹つみ胡麻あえにして食卓へ
　　胡麻あえの野芹の香り朝餉かな
　　おびただしく雛壇ならぶ寺座敷
　　おびただし・・・
　　「産土神社の裸祭り」　添え書きを付ける
　　若人の褌姿寒さ飛ぶ
　　春の野に娘の笑顔蓬摘む　春と蓬　季語が春
　　蓬摘むだから春の野は要らない
　　駆け回る娘の笑顔蓬摘む
　　女の子「ぺこり」と下げし山門前
　　山門へ娘ぺこりと下げし春
　　心より合掌したる雛飾
　　雛あられ両手にいつぱいうれしそう
　　こぼれ落つ小さき両手に雛あられ
　　祭幡参道に鳴り春日和　祭幡　春日和
　　鰐口のくぐれもる音春寒し
　　髪整ふ鏡の中の今朝の春
　　釣ったりと古里いだき春の川
　　正中山・・しょうちゅうざん　と読む

参加者　成子・洋子・育子・ミチ子・弘子・宣子・静代・今日子・恵美子
　　利太郎・粋歩・豊隆・信雄・武彦・久登
　　園子・弘子　投句・弘子・（吟行後・豊隆・宣子）

欠　席

次回予定
三月十四日（木）　吟行なし　十時活動センター　兼題　浅蜊
四月十一日（木）　九時千葉公園集合
　　十時～活動センター九階
五月九日（木）